

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月15日

事業所名 就学前児童サポート教室キャンバス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		日々、整理整頓へ努め訓練室のスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	5		個々の支援の充実を図るため、人員の配置へ努めている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		利用者個々へ伝わるようスケジュールやコミュニケーション等へ絵カードを提示する等の工夫を日々行っている。	日々、利用者個々に合わせ工夫し見通しを持たせられるよう努め支援を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		保清を行う際、用途に合わせた消毒の実施。また、日々清掃消毒を支援者で同じように行い、保清へ努めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		業務改善に関する提案は全支援者で共有し、期間を決め実施し常に見直しを行う姿勢で行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		利用者全員から意向を伺わせてもらえるよう個々に応じ訪問する等行い、全職員で共有している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページへ評価を公開している。	利用者へホームページを案内し評価内容の共有へ努めていきたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5			
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		市の連絡会へ加入し、市内外での研修の情報を得よう努めている。伝達研修の実施。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		児の評価を保護者と共有している。保護者の要望や課題を共有し計画の作成を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		児と保護者が、元気になるような支援計画になるよう努めている。新しい支援計画は保護者へ丁寧に説明している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		毎月の週間計画の中で予定を組み、実施している。申し送りにて児の様子を共有している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		モニタリング時に支援者全員の情報(意見)を活かす。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		曜日ごとの予定を季節、時期に合わせて組んでいる。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5		集団での課題、個別での課題を取り入れている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		勤務表の中で役割の表示を行い、また朝の申し送りで留意する点の確認等を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		児の反応、変化や工夫、留意点などを共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		支援計画を常に意識し、記録へ反映できるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		支援者全員からコメントを得、モニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		個別支援計画を持参し担当者会議へ望み、関係者をチームとし情報の共有を行うとともに利用者の意向も引き出す。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		児も兄弟、姉妹の育ちに関しても保護者からの相談があれば地域の保健師等と連携し支援を行う。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	5		申し出があった際は、丁寧に対応できるようにしたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	5		申し出があった際は、丁寧に対応できるようにしたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		移行時には支援の内容を調査書等へ記載し関係機関で共有し支援が途切れないようにしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		所定の引継ぎ書へ記載も行い情報の共有も行っているが、進級に伴った関係機関との担当者会議へも参加し協力へ努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		市の連絡会にて他事業所等と連携し、研修の開催参加及び会議開催やイベントを通し他害のスキルアップへ繋げている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	5	市の連絡会や行政機関と連携し、研修時の呼びかけを通し接点を設けるようにしている。	認定こども園や保育所等関連の会へ協力の要請を行っていききたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		市内にて結成された通所事業所等連絡会へ加入し障がいを持つ方々の理解を広めるための啓蒙活動へ取り組んだ。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		来所時や送迎時の場面を大切に、コミュニケーションを丁寧に行っている。情報は申し送りメモや朝のミーティングで共有している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	5	利用者個々に合わせ支援を丁寧に行っている。今年は県外より講師を招きペアレント・トレーニングに特化した研修を行った。	保護者向けにペアレントトレーニングを行ってきたが、参加者が少ない結果があった。多くの保護者へ参加して頂けるようアプローチしていききたい。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時、利用料やその他の事柄へも不安に対して、伝わりやすいよう丁寧にメモしながら説明している。		
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		利用者に伝わりやすいよう専門用語は極力控え、丁寧に説明している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		日々の来所や送迎時等を活用し、保護者の子育ての悩みなどを拾い電話や家庭訪問等を通し対応へ努めてきた。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		感染症予防の為に自粛することが多かったが、保護者向けの研修を開催した。課題等の共有を通し保護者の連携作りを行った。	保護者向け研修の実施等や保護者会等、感染に留意し開催を行ったが、参加者が少なかった。多くの参加が得られるようアプローチが必要と思われる。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		丁寧にお話を伺い、必要に応じ専門機関との連携も行い対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		保護者へ了承を得、個人情報へ取扱いに配慮している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		行政等への情報共有時や写、真の掲示等があればその都度保護者へ確認を行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		合理的配慮を行い「伝わる」事を大切にしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5		ハロウインの仮装パレードを通し地域へ事業所の存在と、通所する児への理解の場へ繋がるよう行っている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		火災時を想定した訓練の際、地域の方々へ事前にお知らせを行い理解の協力を得、実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		救命救急法など講習参加を行い非常時に備えるように行ってきた。	コロナ感染症の防止に努め、実施できるような方法を模索し訓練の実施が出来るようにしたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		日々の体調を保護者と共有し、受診時の様子や薬の説明書を通し情報を得ている。母子手帳を通し予防接種の状況を得る。	必要時に対応していく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		現在、該当児の利用は無いが保護者を介し医師の指示書を共有し対応できるよう努めていた。	必要時に対応していく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ヒヤリハットはスタッフで直ぐに共有する。また、対策を話し合い即実施し反省を通し見直しや工夫があれば再度対策を行っている。	大きな事故へ繋がらないようにする
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		コロナ禍ではあるがweb開催等を活用し研修への参加が出来た。	利用者、職員が適正な環境で過ごせるよう虐待防止へ努め積極的に研修へ参加していきたい。支援会議の中で支援の適切な支援が出来るか、疑問は無いか話し合う。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		契約時、やむを得ず身体拘束をする場合についての説明を利用者へ丁寧に説明している。	個々に応じ必要な身体拘束がある際は、個別支援計画へ記載し保護者へ丁寧な説明をしていくよう努めたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。